

2020(令和2)年3月30日

2019(令和元)年度関西保育福祉専門学校
第2回学校関係者評価委員会報告

1 第2回学校関係者評価委員会の開催について

上記委員会については、2020(令和2)年3月3日(火)15:00～17:00の開催を予定し、委員の方に2月7日付け文書で出席依頼をしていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、国及び兵庫県からの休校要請に従って、山下委員長と協議の上委員会開催を中止し、文書による各委員からご意見聴取及び学校自己評価報告書(案)に対する学校関係者評価を実施しました。

全委員から、意見及び評価を文書により提出いただきました。まとめたものを山下委員長にお諮りし、学校関係者評価委員会のご意見及び評価といたしましたので、報告いたします。

2 委員名簿

NO	委員名	所 属 等
1	長部俊弘委員	社会福祉法人長陽会 ニコニコ桜保育園理事長兼園長
2	田渕勝彦委員	社会福祉法人みおつくし福祉会 救護施設淀川寮施設長
3	田中稔弘委員	社会福祉法人明石恵泉福祉会 西宮恵泉 施設長
4	児玉敏弘委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長
5	濱本亜紀委員	保育科1年生 保護者
6	山下知一委員	社会福祉法人宝塚さざんか福祉会 宝塚さざんかの家施設長
7	松本陽介委員	学校法人阪急学園 いるか幼稚園園長

3 学校自己評価報告書(案)に対する委員からのご意見

【基準1】

- 理念・目的・育成人材像を本校の教育が目指すものとして適切に定められており、入学希望者、実習先等の関係者にも周知の機会を設けられている努力をされている。実習後の報告会にも是非参加してみたい。
- 外国人の育成など新たな課題もある中において、改めて建学の精神を土台としてさまざまな形で周知されている様子が伺える。
- 資格と免許のダブル取得など他校との違いを明確に出しているところは高校生をはじめ多くの人に印象を与えるので、非常によいと考えています。
- 学生に対する教育理念の周知は一朝一夕に浸透するものではないと思う。法人の経営理念も同様で、事あるごとに繰り返しはなさなければ身に付かない。
- 以愛為園の精神を基に思いやりのある教育者の育成がなされている。

【基準2】

- 課題に取り上げられている教務の業務内容の見直しについては、完成するという性質のものではなく継続して取り組んでいかれるものと思う。
- 平成24年から中期のビジョンと実践を積み重ねる中で、職業実践専門課程の認定やスキルアップ講座の開催や工夫された奨学金制度の創設などは素晴らしい取り組みである。学校の魅力や専門性の発信(広報)は今後ますます重要かと思われる。教職員も普段忙しいと思うので、広報の専門業者を活用するための予算確保などは必要性に応

- じて柔軟に変更していくことも考えられる。(業務効率の課題改善を兼ねる)。
- 教育の質を落とさず、業務の改善を図ることは非常に難しいと実感している。
 - 2019 年度学校経営重点目標には、4 項目に「早期就職(10～11 月)」とあるが、兵庫県私立幼稚園協会アンケートでは平均就職面接時期が 7 月となっている。早期就職に結びつけるためには、就活時期の見直しが必要と感じる。ただし、学校の就職率が 100%であるので、特に必要ないのではないかな。
 - 運営方針の策定やシステムの構築はなされている。最終的にはシステムを使いこなすことができるように、日々改善されることが望ましいと考える。
 - ホームページ・さくらメールなど情報伝達が効率よく整備されている。

【基準 3】

- 2014 年以降の教育の到達目標までの自己評価を継続して行い、学生自身が今の自分を確認しながら次の目標を見据えられる学習を主体的に取り組むための工夫等が適切に実施されている。また、外国人留学生が介護福祉科に増えた現状を踏まえて日本語授業を取り入れているのも、現状に合わせたカリキュラムで大切だと思う。
- 資格取得(ガイドヘルパー等)後に実際アルバイト等就業で体験ができるような斡旋があると、学生自身が将来イメージを持ちやすいのではないかと考える。
- 評価欄の①が「適切」となっているが、課題欄にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定となっているのはどういうことでしょうか。今あるものを改善すると理解してよいか。
→ 両学科で策定されているディプロマポリシー(教育目標)、カリキュラムポリシー(教育課程)を今年度見直し策定したアドミッションポリシーとも関連付けて、より分かりやすく一貫性あるものとして策定する。
- 評価項目(1)から(8)について「適切」とされていることは妥当と考える。
関西国際大学との連携効果が出ている様子が伺える。それと併せて、専門性の養成の枠を超えて積極的に資格取得の機会を学生に与えていることも学生にとっても貴学に入学する魅力にプラスとなると考える。
- 関西国際大学との関係を持った教員研修や教育活動の取り組みを実施されており、素晴らしいと思う。小規模校故に、外部の風を入れることが一層の活性化につながると思うので適切な取り組みが行われていると判断している。
- 実践的な教育、実習記録作成などを、今後の実習に活かしている。

【基準 4】

- 就職率 100%、退学率 5.2%は学校の教育成果が現れている部分であると思われる。介護福祉士の国家試験受験資格は、先に就職して実務経験を 3 年経てからという別ルートもあるため、専門学校で受験資格を得るというだけでの差別化が難しく、別の工夫が必要な点だと考える。
- 従来から取得できる資格に加え、新たな資格取得の機会を与えるなどは、課題にあげられている入学者を増やすための魅力づくりとしてもよい取り組みだと思う。退学率に関しては入学希望者の減少を考えると門戸を開くことと、入学者の選抜を考えると難しい課題と思う。
- 就職率のよさや資格取得の奨励など、丁寧な指導がなされていると首肯できる。高校においても、きめの細やかな指導が奏功することは真実であると理解している。
- 保育・介護共に人員不足の職種であり採用側がハードルを下げている状況なので、就職

率は高いと思われる。目的意識の低い学生が増加する中での退学率の減少は努力が伺える。

- 就職率・資格取得率の向上は図られている。

【基準5】

- 進路・就職の体制整備として学校独自の奨学金制度や日本学生支援機構、民間企業等の奨学金制度は学生が学びやすい体制整備だと思う。ペイドインターンシップ制度は新たな試みで、今後の利用状況に関心を寄せている。
- 新たな奨学金制度を設けること、現場ボランティアに加えペイドインターンシップ制度を設けたことなど学生支援体制の充実は入学希望者を増やすことにもつながる。
- 様々な面で丁寧な支援体制が伺われ、大変素晴らしい。
- 学生支援に関しては特にありません。ペイドインターンシップ活動をアルバイトと混同することがないように注意が必要と感じる。
- 修学支援に関する制度やクラス担任と保護者との連携などよく整備されている。

【基準6】

- 創立後 66 年が経過し、適宜照明を LED に変更するなど管理が進んでいる。防災についてもマニュアルを定めるとともに、消防署員立ち合いのもと、全学生・教職員が参加しての南海トラフ地震を想定した避難訓練を実施されており、適切な体制整備がなされている。
- 校舎については地震対策など安全性の確保がなされることが最優先だと思う。その上で、多少の化粧直しをすることも学生獲得には重要な要素だと考える。
- 施設設備については、予算に関わる場所があり一朝一夕に行かない面があるにも関わらず、学生のニーズに丁寧に寄り添い、対応している。
- 施設・設備の整備には膨大な費用が必要となるので、収支状況を勘案しながら進めていかれたらよいと考える。
- 施設、教育設備（電子ピアノ）など適切に整備されている。

【基準7】

- 学生募集については、訴求力を高めるための有効な広報活動の情報収集と業務効率化のための外部委託も必要な部分であると思う。現状、適切に行われているが、工夫の余地もある部分ではないかと思う。
- 大学と比較して、本校の特異点のひとつは広く社会人も受け入れる体制だと思う。また保育科に関して言えば専門学校の中でも保育士資格と幼稚園免許の両方が取得できることは、こども園が増えている現状を考えると、競合校に対して有利な点だと思う。
- 事業計画に挙げられている「入試制度の見直し」「社会人受け入れ体制の充実」「社会人受入促進等に向けた各種制度の導入」は具体的にどのように取り組まれているのか。
 - 入試制度の見直しについては、今年度、アドミッションポリシーに基づき、「入試面接評価票」のルーブリック（評価基準）作成に取り組んでおり、次年度入試から導入することとしている。また、社会人受け入れを促進するため、ハローワークとの連携を図るため、複数回訪問を行った。委託訓練生の募集期間を、これまでより約1ヶ月長く設定した。さらに、規程を定め、他校等における既修得単位等の認定制度や、科目等履修生制度を設けた。
- 学生目線に立った広報活動は、常々大切だと思っているが、本校ではなかなか職員に周

知浸透できないところに難しさを感じる。

- 学校HPが更新されてスマホにも対応しており、非常に見やすくなっている、広報において有効だと感じた。
- 少子化等の影響により学生募集活動は益々厳しくなると考えるが、アドミッションポリシーは高いレベルを維持していただきたい。
- パンフレット、ホームページなど募集活動は適正に行われている。

【基準 8・9・10】

- 公認会計士による外部監査が入り、ホームページにて財務状況も公開されており適切である。法令遵守については適切に個人情報保護がなされており、学校外の委員を含めた学校評価委員会の組織化や自己点検に役立てるなども適切である。地域貢献の認知症サポーター養成研修などは、市民の参加を広報などで呼びかけて理解や普及に繋げると、学校の教育機関としての専門性や機能が地域公益に結び付くのではないかと期待する。
- 社会貢献という課題は、どの範囲を考えるかによって異なってくると思う。各施設でのボランティア活動も社会貢献と捉えることができる。
- 地域に根ざした教育を積極的に進めており、十分に社会・地域貢献ができている。
- 財務情報の公開、個人情報等、ボランティア活動など適切である。

4 学校自己評価報告書に対する学校関係者評価委員会からの評価

(1) 評価・・・適切である。

(2) ご意見

- それぞれの項目ごとの取り組みについては、現状に合わせた工夫や変更も加えられており、誠実・適切に取り組んでいる。
- 現状の活動を誠実に言い、また課題への対応も認識されている。
- 全般において、法人の理念、事業計画、学校経営重点目標に基づき教育活動が行われている。
- 多面的、客観的、具体的な根拠を元に自己評価が行われており、かつ丁寧、詳細な記述でまとめられている。
- 全面的に建設的な改善が見られた。
- 専門学校は学生から社会人になる難しい位置にあるなか、学生の教育と併せて意識改革も進めて行かなければならない中で、各分野において取り組まれ、年々具体化されていると感じた。
- 保育士・介護福祉士として必要な専門的知識を身につけ、社会に貢献できるような人材育成がなされている。